

観光シンポジウム「北陸新幹線延伸による 信州観光ビジネスの可能性」まとめ

増 田 榮 美

1. 総合文化研究所大会概要

日 時：平成 27 年 10 月 17 日 午前 10：00 ～ 12：00

場 所：上田女子短期大学 北野講堂

プログラム

第一部 軽井沢ウエディング協会 副代表・澤崎 光洋氏 基調講演

「北陸新幹線開通で、軽井沢ウエディングをPR」

第二部 パネルディスカッション

「北陸新幹線延伸から半年 見えてきた課題と今後のビジョン」

モデレーター 上田女子短期大学総合文化学科准教授 増田 榮美

アドバイザー JTB 国内旅行企画 中部事業部 地域統括（長野県担当）

岩本 文成氏

パネリスト 軽井沢観光協会会長

土屋 芳春氏

上田観光コンベンション協会常務理事（上田市商工観光部長）

関 恵滋氏

ながの観光コンベンションビューロー観光部部长

島津 仁氏

信州いいやま観光局 飯山駅観光交流センター副所長

大西 宏志氏

第三部 学生が考える長野県の観光資源

～「軽井沢」「飯山」「上田」「長野」についてのアンケート調査を基に～

- ・学生が持っている各地域のイメージ
- ・調査の結果、魅力的だと感じた観光スポット
- ・訪れたい場所

2. パネルディスカッション議事録

増田 / 皆さん、改めまして、こんにちは。本学の増田榮美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

北陸新幹線延伸からちょうど半年経ちまして、9月あたりから新聞でもさまざまな検証がされてきております。そういう意味で検証を行う絶好の機会ということもありましたので、駅をお持ちの自治体から4人の方にお越しいただきました。また、アドバイザーとしてJTBの岩本様をお呼びしておりますので、旅行代理店の立場からアドバイスをいただきたいと思います。

それでは、軽井沢から順に下っていくという形で、順番に伺いたいと思います。まず軽井沢の土屋様から、軽井沢のこれまでの新幹線を利用したPRですとか、イベント、これまでの取り組み、ちょうどこれから秋の行楽シーズンということもありますので、そういったイベントも、もしあるようでしたらお話しいただければと思います。よろしくお願いいたします。

土屋 / ご紹介を賜りました、軽井沢観光協会の土屋でございます。軽井沢観光協会ですね、北陸新幹線延伸の誘客活動ということですが、実は浅間山を取り巻く自治体が、長野県は東御市から小諸、御代田、軽井沢と、群馬県はですね、嬭恋村と長野原町が入っている浅間山麓観光振興会っていうのがございまして、そこのグループで、平成21年度から金沢で観光キャンペーンをしております。そういったこともありますし、あと軽井沢町が独自で、実はもう10年以上前から金沢、富山に向けてPR活動をしてまいりました。内容はパネル展だとか、あといろいろな軽井沢の文化芸能を紹介するイベントなんかを含めて北陸方面にはPRをしてきたところでございます。

観光協会は、平成25年に富山と金沢で観光キャンペーンを行いました。これは、もっと具体的に、軽井沢の観光素材だとか、あといろいろなグループが行

きまして、ウエディングと、あと MICE の商談会も含めて、具体的なプロモーションをしております。そこに参加したところがウエディング協会、先ほど基調講演をしましたウエディング協会、それと MICE を推進する、軽井沢リゾート会議都市推進協議会というのがございます。それとスポーツを受託、運営しているスポーツコミュニティのクラブ、あるいは追分のですね、歴史も軽井沢の観光素材として一緒に行ってですね、街道の歴史も紹介していたというようなことで、平成 21 年にそういう観光 PR を行いました。このときには、同時にメディアとか、あと金沢、富山両駅長、あるいは地元の観光協会と情報交換を進めまして、北陸の実際のニーズとか、あとちょっと内容を私どもでもお聞きして、今後の軽井沢の戦略に生かしていこうというような勉強会も含めております。大きくは、北陸に向けても今までの取り組みとしては、そんな 3 本の PR 活動をしてきたということを最初にご紹介いたします。

増田 / どうもありがとうございます。MICE を推進していच्छるということですが、近いところで言うと、来年は G 7 交通大臣会合もあるということですね。さらに、これからいろいろイベントも抱えていच्छるということもございます。

それでは、続きまして上田の観光コンベンション協会、関様のほうから上田の取り組み、来年は真田丸の放映を控えていच्छりますので、その辺のところも含めてお話しただければと思います。

関 / 上田の関でございますけど、よろしく願いいたします。まず、新幹線の延伸に伴います観光客誘致の取り組み状況ということでございますが、大きく 3 つに分けてお話をさせていただきたいと思います。まず北陸新幹線延伸が、上田市の地域にとってどういう可能性を持つかっていうことでございます。御存じのようにですね、長野駅さんは全車両が停まります。東日本と西日本の接点ということでございます。また、先ほどありました軽井沢町さんは、長野県の入りに口ってこともございますし、観光地としては、もう大きな成熟地でございます。またですね、本日お見えの飯山市さんのほうは、新しい新駅ということで、非常にやっぱり活発な動きがあると。こういう中で、従来からの駅があって長野から延長するという上田市にとって、どういう取り組みが必要なのかということ、非常に悩ましいといいますが、難しいものになります。大きく

3つの考え方を持って進めてまいりました。

1つがですね、やはり新幹線があいたとしても、最大の観光マーケットですけど、これは首都圏であることは間違いないということでございます。その中で金沢市さん、あるいは海の幸豊富な能登、富山との競合というのは避けられないと。しかしながらですね、目的が全く違いますもんで、全員、皆さんが長野をやめて北陸へ行くわけではないということでございまして、やはり上田、あるいは長野というものを目的にした誘客活動っていうのが大切なんだろうなと。それが1つでございます。

それから、もっと逆にですね、新たなマーケットとしての北陸っていう捉え方がございます。これまで車でどうしても4時間、あるいは電車でもそのくらいかかっていたのが1時間半で来られるという、これは大きなメリットがございますし、事前に金沢に寄せていただきましたけど、ディズニーランドの人気っていうのはものすごくあったわけですけども、全員が全員東京へ行くわけでもございませんので、やっぱりここでも長野の魅力っていうのをいかに北陸でPRできるかっていうところが大切になっていふふうに思っています。

それから、これは上田の特長でもございますけれども、真田氏っていうものをいかに生かすかっていうことでございまして、真田幸村の大阪での人気っていうのはものすごいものがございます。そういう意味では、新幹線経由でサンダーバードと結びますと、新幹線よりも早かったり、ほとんど同じ時間で安く来られるんですね。これを生かすとなれば、やっぱり大阪方面での誘客活動っていうものが大切かなと、そんなふうにいるところでございます。このようなことを踏まえた誘客戦略ということに取り組んでまいりましたということでもあります。

もう1つ、大きなものはですね、やはりこれまで高崎から上越新幹線に乗っていた皆様在北陸新幹線が通るということで、開業前、1.7倍乗るっていうふうに予想をされていたようでもありますけれども、ほぼ予想どおり、もしかしたらそれ以上に沿線をお使いになっているわけでもあります。少なくとも長野県を通るお客様は増えるわけでございますし、実際にも増えているということでございますので、やはり上田なら上田としての名前を売っていくっていうチャンスかなと思います。

ちょっと余談になりますけれども、上田市は今、全国的に知名度がございまして真田氏のふるさとということで大きくPRさせていただいているんですけども、実は北陸新幹線沿いでお城が見える町っていうのは上田市しかないんですね。上田城が新幹線の窓から実際に見えるわけです。これはやっぱり大きな売りかなっていうふうには思っていますし、実際今、夜ですね、ライトアップもしていますけれども、トンネルを抜けますと上田城が浮かび上がるという、これはやっぱりPRしていきたいなと思っています。今年の3月14日に新幹線開業したときに、各駅でいろんなイベントをさせていただいております。その中で上田だけがちょっと特殊なことをやりまして、実は上田城のところで、土手の上に赤い甲冑を着た皆様の手を振ってお迎えするというイベントをやりました。実は、これはですね、新幹線の窓からお城が見えるっていうことを最大限PRしたかったからということでございます。

それからですね、具体的にじゃあ、これまでどのような取り組みをやってきたかということで、一番のポイントだけ申し上げますと、さっきも言いましたけれども、上田の特長をどういうふうに生かすかっていうことですが、上田の場合、お城ですとか真田氏関係の山城、それから柳町に代表されます古い町並み、それから高原、温泉などですね、非常に観光資源が多くありまして、逆に絞り切れないという部分がございます。その中で、やっぱり全国的な認知度っていうことになると、真田氏のふるさとということと菅平高原のスポーツリゾートになろうかなと、そんなふうには思っているところでございます。そんな中で、1つの動きといたしまして、ガイド付きの観光タクシーっていうのを商品化させていただきました。平成25年の1月でございまして、実は売り出した当時ですね、あんまり売れなくて、月に何件かしかなかったんですけども、この4月からですね、一気に増えましてですね、またあとで数字、申し上げますけれども、非常に多くの方がご利用いただいていたということでございます。

それから、おもてなし武将隊というのが上田城にありますけれども、彼らを使った観光案内、それから上田市の施設を巡ることができます六文銭パスポートというようなものを発行させていただきました。

それから、先ほど大阪でのPRということがございましたけれども、実は昨年、

大阪の冬の陣の400周年ということ、それから、ことしが夏の陣ですね、歴史の好きな方だったらおわかりになりますけれども、真田幸村の徳川との攻防で幸村が亡くなってから400年という年でございます。こういうこともございまして、大阪市の天王寺区、あるいは藤井寺市さん、あるいは大阪城の天守閣さんと連携したPRというものも進めてまいりました。また、ご覧になっていらっしゃると思いますが、上田駅にですね、えんじ色といいますか、赤の深いのれんをラッピングさせていただきました。これも、上田の特長を最大限出したいということで装飾をさせていただいたものでございます。また、あと幾つかの取り組みがございますけれども、今後の課題を含めて、また後にさせていただきます。

増田 / ありがとうございます。これから幸村のふるさとということで、来年の真田丸放映に合わせて、ますます観光客の増加が期待できるということですね。確かに上田駅を出まして長野方面に行きますと、お城が新幹線から車窓でごらんいただけると思いますので、ぜひ新幹線にお乗りの際はご覧いただきたいと思います。

では続きまして、長野の島津様からよろしく願いいたしたいと思います。

島津 / ながの観光コンベンションビューローの島津と申します。私ども長野市の全域のですね、観光協会の役割ということで、長野市も合併を繰り返しまして、旧鬼無里村、旧戸隠村等ですね、合併した地域には各地元で観光協会がございまして、長野市、善光寺を含めて全域の観光PR、観光発信をする部署ということでございます。

今回ですね、新幹線延伸に向けてということでございますが、今までの取り組みということでいきますと、長野市の観光振興計画に基づきまして事業を展開しておりますけれども、平成24年度から5カ年計画という観光振興の5カ年計画がございまして、平成24年度、初年度は、長野四季の彩りキャンペーンということで、長野の春夏秋冬、フォーシーズンの魅力を発信をしましょうと。それから、2年目の平成25年度にしましては、体験！長野道場キャンペーンとうたいまして、長野市ならではの、長野で体験をできる素材を発掘をして発信をしていくということで、本日、パンフレットのほうにですね、資料として丸ごと体験ブックということで、これは2015、今年版ですが、こういったも

のをつくって発信をしております。

それから、平成 26 年度、昨年度からことしの 6 月ぐらまでのイメージで、善光寺表参道キャンペーンということで、善光寺御開帳を視野に入れまして誘客を図るキャンペーンを展開してまいりました。こちらに関しましては、善光寺へお越しいただいた方、多くいらっしゃるかと思いますが、御開帳に関しましては、新聞報道等でもございました本年の 4 月 5 日から 5 月 31 日まで、約 2 カ月間で 707 万人のお客様に御参拝をいただいたということで、私どもの取り組みといたしましては、その多くお越しをいただいたお客様に、長野市内でいかに滞在時間を延ばしていただくかということの中で、長野駅から、まち歩き観光、ガイドつきのまち歩き観光、それから新たに食べ歩きチケットという、長野駅から善光寺の間で、スイーツ系のお店でご利用いただけるチケットを 700 円で指定のお店のほうで引きかえをしていただくと。そういったものを組み立てまして、30 分でも 1 時間でも多くご滞在をいただくという形の取り組みをしてまいりました。

あと、最終年度、今この夏から始まっておりますが、27 年度の夏から来年度 28 年度にかけて、ながの「祈りの朝・宵の宴」キャンペーンということで、24 年度からの四季の彩り、体験、それから表参道でのまち歩き等を組み合わせ、是非宿泊につなげるキャンペーンにしたいということで、本日資料に入っております、ながの旅というパンフレットをお作りして、全国のお客様に発信しておるところでございます。

長野市というと、どうしても善光寺ということですが、今ほど申しました善光寺の御開帳がことし開催されました。実は昨年の 7 月から、全国旅行会社さん、それから新聞、テレビ等で、メディア関係にも PR ということで営業訪問をいたしまして、新幹線延伸に絡めまして善光寺の御開帳にぜひお越しいただきたいというキャラバンキャンペーンを定期的に展開してまいりました。その結果、先ほども申しました 2 カ月間で約 707 万人という多くのお客様にお越しをいただくことができまして、経済効果といえますか、長野市、長野近隣の市町村さんを含めまして、ある程度、一定の経済効果は果たせたかなというふうに感じております。

その中でですね、もともと前回の御開帳は平成 21 年、これも 650 万人強のお

お客様が御参拝をいただいたということで、もともと御開帳には多くのお客様がお越しをいただくのは予想できた部分がございますが、地元の宿泊施設さん、観光事業者さんを含めて、6月以降非常に落ち込むのではないかと。前回の平成21年度のときにも、非常に6月以降、御開帳の反動ということで大きく落ち込んだという状況がありましたので、私どもいろんなキャンペーン、それからキャラバン等で、ぜひ長野市の魅力を発信ということで展開をしてみました。

その中で、長野駅の中に、私どもで運営をしております長野市の観光情報センターがございます。こちらも来訪者数ということで、お越しいただいたお客様の数でいきますと、御開帳の開催しております4月、5月に関しましては、前年比約300%ぐらいの多くのお客様にお越しいただいて、6月以降、こちらも落ち込むのは想定されたんですが、前年同月比で比較しますと、150%ほどということで、多くのお客様にまだ10月までお越しいただいていると。特に新幹線が延伸した効果ということで、北陸、関西からのお客様が多くお越しいただいたというふうに伺っております。北陸の方、特に富山の方は、みずから私、富山から来ましたと、お客様のほうからお話をいただけるということで、どこからお越しいただいたお客様かというのはわかると聞いておりますが、北陸、富山、金沢、福井、それからですね、関西からですと、JR利用ですとサンダーバードをご利用いただいて、金沢で新幹線に乗りかえて長野へというお客様が多くお越しになっています。新幹線の改札口のはず向かいにございますので、観光情報センターで近隣の観光情報を聞き取って、皆様方は観光をしていただくと伺っております。おおむね平均値ですが、平日で、御開帳以後6月以降、平日でも500人から日によって800人ほどお越しいただき、週末に関しましては、これも幅がありますが、1,000から1,500人ほどのお客様がお越しをいただいていると。9月のシルバーウィーク等ですね、混み合うときには、やはり2,000名以上のお客様がお越しをいただいてご相談をいただくという形で現在推移をしております。御開帳に関しましても、初めて、善光寺の本堂のライトアップ等も実施をいたしまして、今までにない取り組みを続けております。

あと、情報センターを含めてですね、私どもの取り組みとしましては、先ほどの滞在時間を延ばしていただくということで、食べ歩きチケットの販売で

あったり、市内の宿泊されるお客様の数を増やしたいということで、昨年の10月から、おもてなし夕食クーポンを、市内のホテル、それから旅行会社さんのほうで今販売をいただいています。1冊3,000円の夕食のクーポンをお買い求めいただきまして、市内、今現在でいけば駅周辺、それから歩いて10分ちょっとかかりますが、権堂という地区でご利用いただける夕食用のクーポン、信州の素材を使った料理ということで、こういったものを展開してですね、今後の宿泊につなげる形で進めております。

最後になりますが、今取り組んでおるものでは、このながの旅のパンフレットをまた後ほどご覧をいただければと思いますが、ほかのやはり都市、ほかの地域のほうとですね、違いを発信をしていきませんと、なかなかお越しをいただけないということで、善光寺、それから戸隠に宿坊がございます。宿坊ですと高野山とかが有名ですが、この近隣の地域ですと、やはり宿坊というキーワードがなかなか少ない中でありますので、長野市、私どもといたしましては、今ほど申しました善光寺と戸隠の宿坊にスポットを当てて宿坊体験をしていただいて、精進料理であったり、戸隠でしたらそば懐石であったり、そういった長野ならではの魅力ということを発信して、さらに誘客に結びつけたいというように考えております。以上です。

増田 / ありがとうございます。ちょうど、3月の北陸新幹線が金沢まで延伸したということと7年に1度の御開帳が重なってとてもいい商材があったというタイミングだったわけですが、その後、御開帳が終わった後も観光客の減少がそんなにはなかったということでした。先ほどお話がありました体験ブックというものが皆様のお手元にもあると思います。とても立派なカタログとなっておりますので、ぜひ後ほどご覧ください。

では、お待たせいたしました。飯山、大西様からもお話しいただきますようお願いいたします。

大西 / 改めまして、こんにちは。信州いいやま観光局の私、大西と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私はですね、信州いいやま観光局の中でも幾つか施設を持っているんですが、私は特に飯山駅にあります飯山駅観光交流センターというところで勤務しております。飯山駅観光交流センターの観光案内所がございますけれども、そちらにいつもいるという感じです。

特にですね、やはり飯山駅は長野県内でも新駅ということになりますので、そういった意味でも非常に注目をいただいているのかなということを開業以来ひしひしと実感しているところではありますけれども。特にメディアの方にはですね、目標といいますか、1日の飯山駅の利用者数が1,300人という推計の数字が出ておりました。それに対して3月14日から約1カ月間の利用者数のデータを見ますと、利用者数が約500人ぐらいであったという、そういったJRさんからの実績の報告もありました。そこだけを見てみるとですね、1日の乗降客数、推定からはかなり下回ったところの数字がちょっと劣ってしまっているところがあるんですが、実際にはですね、やはり我々の地域というのは、ビジネスの利用よりもむしろ観光の利用が非常に多いのかなという地域であります。ですから、ちょうどスキー場のシーズンが終わる3月14日からゴールデンウィークに入る前まで期間の数字がそういう数字で出てはいるんですけども、やはり例えばゴールデンウィークの期間中になりますと、菜の花まつりという大きな祭りがあります。そのときにはですね、非常に駅全体もごった返したりもしましたし、またお盆やシルバーウィーク、こういった時期につきましては、非常に多くの方、お越しいただいています。また、今年はですね、冬になると本格的なスノーシーズン、スキーシーズンに入りますので、そうすると非常にまた多くの方が増えるのではないかなというふうに思っております。JRさんの利用者数は、その後公表されておりませんが、私どものですね、飯山駅の観光案内所の来訪者数を見ますと、旧駅は在来線の駅しかございませんでしたので、そこにも観光案内所はありましたが、そこと比べると、数字的に見るとですね、日本人の来訪者数で7倍、外国人で10倍という数字が出ていますので、その観光案内所の来訪者数だけを見ると、非常にやはり新幹線の駅ができたことによって多くの方が訪れていただいているのかなという、そんな実感を我々としては受けているところではあります。利用者数としては、そういう状況ではあります。

新幹線開業に向けてこういった取り組みをしてきたのかということでも申し上げますと、私どもの信州いいやま観光局という組織で申し上げますと、平成20年に、私ども飯山市振興公社という道の駅と温泉施設とあと自然体験施設を持った施設、それと飯山市観光協会という施設がありましたけれども、通

常の観光協会ですね。その2つが平成20年に統合しています。統合したのは、やはり新幹線開業に向けて、より強固な観光の組織をつくり上げようということで統合してですね、今はいいやま観光局という形で事業を進めておりますけれども、その開業に向けていろんな取り組みを行ってまいりました。

1つ、施設をとって申し上げますと、今申しあげました3施設に加えまして高橋まゆみ人形館という施設も平成20年に開業しておりますけれども、やはりですね、来たお客様には、ここにしかない、飯山らしいものを体験してほしい。そういった意味では、やはり食べるものもそうですし、体験するものもそうです。そして目に入るものも全て含めまして、やはり飯山らしい演出ができるような施設運営、これをこれまでつくり上げてきたのかなというふうに思っております。

また、それ以外にもですね、施設以外のところで申し上げますと、例えば全長80キロの信越トレイルというトレッキングコースがあります。これは、なべくら高原・森の家という私どもの施設のところに事務局を置いておりまして、そういったトレッキングルートを手を平成16年からつくり上げてまいりました。現在では、年間3万人の方が歩いていただいているという状況です。あと森林セラピーという事業も進めてきております。この飯山市周辺におきましては、非常に豊かなブナの森があります。そのブナの森を今申しあげましたトレッキングだけではなく、やはり森を活用して癒やしの空間として提供していこうということで、いわゆるトレッキングや登山とは違う、もう少し違う視点での森の活用ということで、森林セラピーというものを、これは平成18年からですね、取り組んでまいりました。

それ以外につきましては、やはり飯山の駅に着いたときに、やはり何かがあるのか、何を体験してもらえるのか、飯山らしい体験をしてもらうためのいわゆる着地型旅行商品とよく言われる、そういった地元発着の商品というものをつくり上げてまいりました。これは「飯山旅々。」というブランドで私ども売っておりますけれども、インターネット、もちろんパンフレットもそうなんです、そういったものを通じまして、ここ飯山らしい体験ができる旅を提供しております。

その中では、例えばイナゴをですね、昔は飯山ではよく捕まえて食べていたり

もしたんですが、そういったイナゴを捕まえて実際に料理をするであるとか、あるいは我々の地域は非常に雪が多い地域ですので、根曲がり竹というですね、いわゆる上田でもとれますかね、根曲がり竹というタケノコをとって、春はタケノコ汁というのを食べます。そういったものを商品にしてみたりとか、あとはロングステイというプランもですね、非常に力を入れて積極的に行っております。5泊、10泊、15泊ということのロングステイプランというものをつくりまして、これを販売しております。これもですね、年々増えておりまして、やはりこういった自然豊かな自然の中で、都会の方にはのんびり滞在していたきたいという、そんな思いでロングステイのプランもつくりました。

そして町なかには、飯山はですね、寺のまち飯山、雪国の小京都という呼ばれ方もしますが、そういった町なかをご案内するガイド、ガイド組織の立ち上げというものも平成20年から行っています。飯山ふるさと案内人ということでガイド組織をつくっております、現在40名の登録がありまして、やはり新幹線開業後は、その駅の周辺の町なか、寺町を観光したいというお客様が非常に増えています。恐らく、数字的に見るとですね、去年の倍以上増えているかなと思いますが、そういったガイド組織をつくり上げてきたことで、今非常にガイドさんの稼働が増えているという状況になっております。飯山だけを捉えますと、そういった形で、これまでつくり上げてきたものがようやくですね、新幹線開業して、お客様に使っていただけるような、そんなものになってきているのかなというふうに私どもとしては実感を受けているという状況です。

あと、それ以外で申し上げますと、広域的な観光の取り組みを行っております。飯山駅を中心といたしまして、半径20キロの圏内、車で移動しますと、約30分から1時間の圏内ではありますが、そこに長野と新潟県の9市町村がおさまるエリアがあります。そのエリアをですね、信越自然郷という名前を、ブランド名をつけまして、今広域的な観光の取り組みを行っているという状況です。プロモーションという部分でも行っているのはもちろんなんですけれども、それ以外にもですね、事業として行っているものとして、おさんぽバスというものを運行しております。春はですね、おさんぽバスで花めぐりという企画をやりました。まさに今日も動いておりますけれども、秋はですね、おさんぽバスで秋めぐりというバスを運行しています。信越自然郷のエリア、一番標高の高い

ところで志賀高原の2,300メートル、ここは国道の最高地点になりますけれども、があります。そして飯山駅が約300メートルです。標高差で言いますと2,000メートルあるわけですが、非常に我々の地域は雪が多いということで、それこそゴールデンウィークの時期、飯山の里の300メートルでは桜が咲いたり菜の花が咲いたりしているわけですが、まだ志賀高原の標高の高いところではスキーを楽しんでいると。要は同じ時期にですね、春と冬を同時に楽しむことができる、そんなエリアでもあるかなと思います。ですから、そういった標高差を利用して、やはり花の咲く時期というのもずれてまいりますし、紅葉の見ごろというのもずれてくるわけですね。そういったずれて見どころが見ごろを迎えるというところを利用いたしまして、約1月間にわたって花めぐり、そして秋めぐりということで、花と紅葉を楽しむバスツアーというのを行っています。非常に春も好評だったんですが、本日もですね、バスは志賀高原、奥志賀林道というところを通ってですね、カヤの平というブナの森、そこを通って飯山駅に戻ってくるという、これ、半日のバスツアーなんですけれども、午前3時間、午後3時間で戻ってくるというコース設定をしておりましたけれども、中型バス、27人乗りのバスで、今日も明日も予約は埋まっているという状況です。

そういった意味では、やはり降りていただいたときに、何を体感できるのか、こらしい体感をしていただけるような仕組みというのがやはり非常に必要なのかなというふうに我々も実感しているところでありますし、そういったものを提供すればお客さんもやはりここならではの体感、非常に喜んでいただいているなど、満足が高いなというところを我々も感じているところであります。あと、それ以外につきましては、我々の地域はスキー場が非常に多いんですけれども、全体で39のスキー場があります。その全ての39のスキー場を楽しんでいただけるような信越自然郷スーパーパリュウチケットというスキー場の共通リフトクーポン券をつくって3年目の販売を迎えております。そういった、1つのスキー場だけを楽しむのではなくて、やはりこの地域全体、多種多様なスキー場がありますので、そういったものを多く楽しんでいただいて、先ほどお話ししましたが、滞在日数、滞在時間を延ばしていただく、そういった試みも行っております。

あと、飯山駅の中に信越自然郷アクティビティセンターという新たな施設を創りました。我々の地域は日本一長い千曲川、新潟県に入りますと信濃川になりますが、もございますので、カヌー、そしてラフティング、そして山に行くとトレッキング、登山、そして冬はですね、やはりスキー、スノーボード、ワカサギ釣りもあります。

そして、最近はですね、何よりも自転車ですね。自転車でお客様に楽しんでいただける仕組みづくりというのを行っております。アクティビティセンターでは、多種多様な自転車を今年70台購入いたしまして、マウンテンバイク、クロスバイク、そして2人で乗れるタンデムバイク、そして子供用の自転車、電動アシスト、シティサイクルも含めまして70台を入れました。降りていただいたときに、新幹線の速いスピードで来ますけれども、やはり我々の地域は自然豊かで、いわゆる懐かしい日本の原風景が広がっている地域です。ですので、速いスピードで来ていただきますけれども、やはり我々の地域は歩くスピードや自転車のスピードで楽しんでいただいて初めてそのよさを実感していただけるエリアだと思っています。ですから、そういったのんびりと楽しんでいただける、滞在時間を長くっていただいて泊まっていたいただけるような仕組みづくり、こういったものをこれまでやってまいりましたし、今後も進めてまいりたいと、そんなふうにも思っております。以上です。

増田 / ありがとうございます。これから雪が降ってきて、スキーシーズンということで、飯山のベストシーズンを迎えるということでしょうかね。お聞きしていますと、「自然」と「食」というのが飯山のキーワードになってくるのかなというように感じております。

それでは、一通りお話を伺ったところで、岩本様のほうからお話を伺いたいと思います。各地域でいろいろな取り組みがあって、さまざまなイベントを企画していらっしゃる、そういうことに対しての例えば北陸や関西方面、首都圏からのお客様の反応ですとか、あるいは観光商品の開発ですとか、そういったところからの関心、実感のあるところでお話いただければと思います。

岩本 / こんにちは。JTBの岩本と申します。私の業務はですね、通常、旅行会社ですと、やはり皆さんを旅行に連れてくってというお仕事が主だと思うんですけど、今はですね、いかに長野県にたくさんのお客さんに来てもらえるかっていう交

流人口を増やすってということとですね、長野県でたくさんのお金を遣っていたきたいって、観光消費額を上げるってことを目的に今、長野県全域で仕事をしております。

まあ、そういった中で、北陸新幹線というこのキーワードの中で何がまず変わったかということですね、全国的に見た中では、やはり首都圏マーケットが、一挙に実は北陸に行っています。もう今、北陸はで宿が取れない、本当にですね、一時はもう金沢のホテルは稼働率、90%以上、そういった中で、石川県から今、富山県、福井県も、すごく今、観光客が行っております。先ほどの新幹線の情報二重の話もありましたけど、もう200%どころではなくて、それ以上で行っております。そういった中で、今日お越しいただいている軽井沢から飯山までの、このエリアが今、現状どうなるかと言うと、実際、私どもJTBの統計を見ますと、首都圏からのお客さんはそれほどさほど変わっていないんじゃないか、逆にちょっと減っているんじゃないか。逆にちょっと今回、変わってきたマーケットの中では、やはり今まであまり来れてなかった北陸からのお客さんが、やっぱり、この長野、信州に、今まであまり来ていなかったと思う中でですね、実は約3倍伸びております。

私どもJTB、他の旅行会社もそうなんですけど、今まであまり北陸発信州商品っていうのは、実際、あってはいたんですけど、鉄道を使った商品を作っていないくて、今年度、延伸に伴って、御開帳もありましたので、北陸発の信州商品を作りまして、それも相乗効果で良かったっていうのもありましたし、逆に新幹線が繋がったことによってですね、実は意外と車で北陸の人たちが信州に来ているっていう現象も今、起きております。まあそれはかなり長野県の皆さんは、金沢、北陸に行ってプロモーションした成果かなと思っております。そういった中で、今後やはりこのエリアをどういうふうに関連させていくのが、ひとつの課題かなと思っております。いわゆる先ほど話したとおり、すごく魅力ある素材っていうのがたくさんあるかと思いますが、それをどうやってつなぐのか、つないでいったらいいのかっていうのが、ひとつ、私ども旅行会社の役割かなと思っております。

ひとつ良い例、例えますと、やはり、今年ちょっと今、観光列車ブームだとは思いますが、長野県も観光列車、たくさん、いろんなところ走っているん

ですけれど、この沿線で行きますと、軽井沢から長野までの、しなの鉄道さんがやっている「ろくもん」、これ、すごく大ブレイクしてしまってますね、今、団体だと、2月、3月は取れないって話を聞いておりますし、逆にJTBでもキャンセル待ちの中ですごく混んでおります。そういった中で、この沿線を、ひとつフックとして観光列車が走っているっていうことは、やはりこの沿線にすごく交流人口を増やすひとつのきっかけになりますし、この辺のですね、つないでいる、ひとつは観光列車かもしれませんが、そういったものを上手く結びつけた商品を作ったらどうかと思っております。

あとは、各駅の連携も今後ですね、例えば「真田丸」が、NHK大河ドラマが始まりますので、上田と長野がどういうふうにくっついてですね、そこからどうやって移動したらいいのか、お客さまに分かるように、私どももやはり商品を作っていくといけなかなと思っておりますし、逆に今、去年ですか、一昨年ですか、富岡のほうで世界遺産になったという製糸場がありましたけれども、実は一番近い宿泊ポイントって軽井沢なんですね。マーケットから見ると、全然良く分かっていなくて、群馬県だから、じゃあ、伊香保とかそっちのほうに近いんじゃないかっていうのがマーケットの見方なんですけど、やはり、実は軽井沢に一時間で来れるっていうことで、今JTBとしては、バスを実は今出しているんですね、オリジナルで。バスっていうのは地域の二次交通を背負っているバス会社があります。あまりこういうのは私たち、侵してはいけないんですけど、やはり、実は何も無いところで、そこを結びことによって一時間で軽井沢に来れますよと。世界遺産と軽井沢っていう、ここをですね、広域で今、結びつける取り組みをJTBではやっております。今このエリアは意外と安中市さんと富岡市さんと軽井沢町さんでいろんな取り組みをしております、こういった取り組みを強化していきたいなあと思っております。

あと、広域的にはですね、今、ながのコンベンションさんと強化している中では、今後、大阪マーケットも、やはりサンダーバードを使った金沢乗り換えの新幹線っていうのは必ず増えてきます。逆に今、大阪、前は今まで名古屋経由で信濃で3時間使わないと来れなかったのが、1時間短縮になりますけど、サンダーバードで日本海を通ってですね、立山連峰を見ながら、全く景色が違うエリアで長野県に入って来れますので。そこを伸ばすためには、じゃあ長野県のゲー

ト口はどこなのかっていう中ですね、例えば今日来ていないエリアで言いますと、大北エリアの糸魚川もゲートになりますし、逆に上越妙高駅を上手く活用していったらどうかっていうことで、今日、ながのコンベンションさんも来ておりますけれども連携しながら、妙高、黒姫、戸隠ルートをですね、長野までの広域観光バスを今、走らせてですね、プロモーションをかけようという動きをしております。

また、上田駅さんにつきましてはですね、意外と松本と上田がこんなに近いんだということを実はマーケットはまったく知らなくてですね、特に関東圏がほぼ上田は多いとは思うんですけども、中京、関西から見たときに、いわゆる松本までは近いんですけども、そのいわゆる新幹線沿線がすごく遠く感じる。ただ山があるだけで、実際は近いっていうことを、今後もJTBとしては、松本から上田までバスを走らせていただいているんですが、そのプロモーションをかなり強化して、来年特に「真田丸」がありますので、この路線も広域観光っていう中で、松本、上田を連携させるような取り組みも今しております。そういった中で、やはり今後、キーワードとしては、広域の連携をいかに取り組んでいっていかっていくのが、より交流人口を増やす中のポイントかと思っておりますので、またよろしく願います。

増田 / どうもありがとうございました。広域連携ということのお話が出たわけですけども、直近で言えば「真田丸」の放映に伴いましての上田と長野の連携ですとか、飯山の場合は、先ほど飯山の西様のほうからもお話がありましたように、信越との連携ということもありますし、さまざまな連携がこれから可能になっていくのではないかと考えています。

先ほど皆さまからのお話の中にもありましたけれども、ここで、ちょうど半年経ったところで、どれくらいの宿泊客なり乗降客なり、どれくらい増えているのかとか、そういった検証をされていらっしゃると思います。新聞にもありましたとおり、JR 東日本の場合は、きちんとしたそういう情報を出さないという方針のようですので、それぞれのところで独自の検証結果をお持ちなのではないかと思っております。ぜひ、その辺の検証結果も踏まえて、どのような調査をして、どのような結果になっているのかということをお話いただければと思いますが、軽井沢の土屋様、いかがでしょうか。

土屋 / ちょっと皆さんもいろんな活動のほうまで踏み込んでいらっしやっただんで、私、北陸の取り組みだけを先ほど、ちょっと申し上げたんで。

増田 / 申し訳ありません。その辺も。

土屋 / これから、ちょっとお話しさせていただきますけれども。

増田 / はい、そうですね。

土屋 / 軽井沢は、実は JR の新幹線は伸びています。今年の夏の 7 月、8 月の入り込み客が 372 万 8 千人なんですね。これは、実は前年度比で比較しますと 3.5% の減。ただ、前々年、一昨年から比べると 4.4% の増となっております。で、消費額はですね、98.9 億円で、前年比から見ますと 4.8% の減。ただ、一昨年と比べますと 5.5% の増ということで、これは、実は昨年は皆さんご存知のとおり、ショッピングセンターの増床がございまして、まあ、ここ近年にない軽井沢の異常な入り込みっていうか、830 万人というお客さまをお迎えしていたもんですから、単純には比較できない部分がございます。で、相変わらず日帰りのお客さまが多いということで、これからそれをいかに滞在させるかっていうのは、これからの軽井沢の観光戦略になってくるんですけども。まあ、そのような中で、軽井沢も実は観光客以外にも人口が増えていまして、これは新幹線効果って言えるかと思います。新幹線開通してから、例えば、平成 2 年は 1 万 5 千人なんですね。ところが、27 年の昨年はもう 2 万人を超えました。今年の 1 月 1 日の統計ですけども。で、新幹線の利用客もですね、JR の発表によりますと 1 日平均 3,333 人で、あと定期的利用客がね、これも実は増えています。一昨年が 380 人だったものが、昨年は 422 人ということで、佐久平さんとか上田さんとか長野さんにはまだ及ばないものなんですけれども、いわゆる定着者が増えているという。これはリタイアシニアもそうなんですけれども、若い方がこちらへ移住されてきて、起業されているっていう方も相当います。それと、ご家族はここに残して、東京のほうへ通勤されているっていう方もいますので、そういった軽井沢の立地的な条件も加わってですね、まあ、そのような状況が読んで取れます。

鉄道なんですけども、今年、7 月は前年比の 1.6% 増。で、8 月は 1% の増ということで、鉄道は堅調に推移をしているんですけども、車両の入り込みがですね、さっきの入り込み客が減ったというのに比例してくるんですけども、

7月が14.4%の減、一昨年に比べますと10.4%の減ということで、大分、実は7月の海の日からお盆まで、お盆明けもですね、ちょっと天候が不順でしたので、確かに道路はかなり例年に比べてすいているなという印象は町内のかたはお持ちになっています。

で、それと新幹線から見てきた課題ということで、皆さん、多分お感じになっていると思いますけれども、やはり非常に不便になりましたね。「あさま」がこだま型になって各駅停車になったということと、あと「かがやき」も通過する列車もあったりして、停車本数はとりあえずは維持されたんですけども、時間帯によっては非常に不都合だったりして。あと一番は「かがやき」が停まらない、このイメージ効果っていうのは、非常に大きいっていうふうに考えています。なんか通過点にあるような、普通の田舎のローカルな駅みたいなね。ここは、実績でJRのほうは判断してきますので、ここら辺をどういうふうにしていくのか、非常に高いハードルだとは思っています。ただ、軽井沢は別荘客が多いものですから、グランクラス、グリーン車の利用客っていうのが圧倒的に強いっていうのは、駅のほうからもお聞きしています。これが軽井沢のお客さまの層かなというふうに感じております。

あと、ちょっと戻りますけれども、「はくたか」と「あさま」の時間帯の不便さから着席率が非常に落ちたということもございます。あと、成功事例もあって、成功事例かどうか分かりませんが、先ほどの北陸のプロモーションを軽井沢はしているんですけども、北陸からもマーケットが広がったということで、お客様を多く誘客したい、それと今回の北陸新幹線は金沢で今、止まっていますけれども、あれが関西圏と中京圏と結べば、巨大なこういう環状型の大きな環状のルートの完成ということで、これが、東海とかですね、いろんなエリアまで多分、波及してくるのかな。で、確かにプロモーションは、重点的にかけなければいけないということはありますけれども、かなり広域的な意識を持って、また戦略を立てていきたいな、というふうに考えております。

それと、先ほど北陸の事情はいろいろお聞きしてきましたけれども、具体的に、自治体とどういうふうにつながるのかっていうことで、特に北陸を申し上げますと、富山だとか氷見だとか、あと七尾とか、そういったところの自治体、あるいは観光協会とですね、これから海と山とという、性格も違うものですか

ら、ただ北陸新幹線で1本に結ばれているということで、新たな知恵と、あと努力が必要かなというふうに、観光造成の中では、そんなふうには考えていますけど。まだ、ほかにございましたっけ？ よろしいですか。じゃあ、また次のときに。

増田 / ありがとうございます。観光だけではなく、定住人口が増えているということで、それも1つの新幹線効果かなと思います。それと今、軽井沢から出て来た、課題というところで、何か、JTBさんからアドバイスはありますか。

岩本 / これは、軽井沢のいろんな施設さんでもかなり言われてはいるんですけども、やはり金沢からの「はくたか」ですね、着時間が意外と朝と夕方以外、その間、かなりないですね。となると、限られた列車しか、軽井沢に來れないっていうのがあって、これは、もうJRさんに申し入れしていかないですね、なかなか、その停まる時間帯については、どうかとは思っています。

あとは今、土屋さんから言われた「かがやき」を停めるっていうのは大きな課題かなと思っていて、これはもう、軽井沢全体でもう陳情しないとなかなか厳しいかなとは思ってはおりますけれど、まあ、そういったダイヤの見直してっていうのは必ず1年毎やっておりますし、必ず乗降人数全部調査して、JRさん、やっているとしますので、そこはかなり継続的に依頼をしていくのは大事なかなと思っております。

増田 / ありがとうございます。それでは、上田では、この半年の中での効果ですとか、見えてきた課題というものを何かお持ちでしょうか。

関 / はい、一番はですね、新幹線延伸の純粋な効果の検証はなかなか難しいっていうのが実態でございます。新聞等でも報道ございましたけれども、JR東日本さん、上田駅の乗車数等を発表していただいていけませんので、我々も上田駅1日3,000人っていうのを目標にはしておりますけれども、その数字がどうだったとかっていうのは、まだ来年、再来年にならないと分からないっていうことになるかなと思います。

ただ、今回の新幹線の延伸につきましては、単なる延伸というよりも附帯するいろんなイベントの影響っていうのはものすごく大きいものと思っています。一番、やっぱり4月4日に開会しました善光寺の御開帳、2カ月弱で700万人っていうお客さんが訪れるっていうイベントは、これはもう凄まじいイベントで

す。この影響っていうのはものすごく大きいものと思っています。ただ、上田といたしましてもですね、上田にあります別所温泉の北向観音、両参りということで巡らせていただいています。正しくは江戸からになります。別所温泉でお泊りいただいて、北向観音で厄を落とし、善光寺に行くっていうのが正しいお参りだということとをずっと売らせていただいていたので、そんなこともあったり、新幹線が通ったということもありまして、長野経済研究所さんの経済月報という中でも、善光寺さんの参拝者へのアンケートで、善光寺の後、上田の方に行かれる方が5.1%あるというふうになっています。これはですね、前回の2009年にはベスト10にも入らなかったものが4番目にランクされたっていうことで、やっぱり新幹線における人の移動っていう効果が大きかったのかなというふうに思っています。

それから上田の独自のものですけれども、4月に上田城千本桜、あるいは上田真田まつりという大きなイベントがございます。この辺が合わさってきたっていうこと、それから昨年の5月に大河ドラマ「真田丸」の発表がありました。いろんな要素が加わりまして、お客さんが増えているかなっていうふうには思っています。

新幹線利用の推計方法の1つということで、ちょっと見てみますと、まあ、実際に新幹線の駅の利用者は分かりませんが、ここを走っています別所線の電車がございまして、これを利用される方っていうのは、基本的には車は利用されていないわけございまして、普通の乗車券で乗られた方、この増がやっぱり大きな影響になっているは思っています。ちょっと調べさせていただきましたが、4月が14.5%、5月が31%と大幅に増えています。まあ、ここまで善光寺の御開帳効果かなと思っておりますが、6月になりまして7.9%、7月に14.8%、8月でも4%増ということで、非常に大きく伸びています。この辺がやっぱり新幹線の効果っていうのが大きいのかなっていうふうには考えているところでございます。

それから、今後の課題ということでございますけど、先ほどJTBさんのお話もございましたし、軽井沢さんのお話にもありましたが、「かがやき」が停まらないっていうのは、これはまあ、ちょっとやむを得ないかなっていうのもありますけども、「はくたか」が問題でございましてね、金沢発の「はくたか」

9時21分っていうのがありますが、上田着が11時2分。この後上田に着く「はくたか」が4時53分までないんですね。みんな長野止まりで、長野からの「あさま」への乗り継ぎっていうのは、必ず猶予されていますけれども、この辺については、やっぱり北陸新幹線から直接乗り入れるっていうことになりまして、やや上田にとっては不利かなっていうものもございませう。

それから、やっぱり今後の最大の課題は、NHK大河ドラマの中で、どのくらい誘客できるかっていうこととございませう。今日のピラも入れてございませうけれども、1月17日いいよいよ大河ドラマ館、オープンいたします。これは全国でも唯一のドラマ館と名乗れる施設とございませう。お一人600円と設定させていただきますけれども、是非、ご覧いただければというふうには思っているところでございませう。

それから、さっきも申し上げましたけれども、大阪からいかに人を引っ張るかっていうのを課題と考えています。やはりですね、大阪の真田人気っていうのは大きいんですけども、真田信繁、幸村が上田の出身だということとをいかに大阪でPRできて、一度おいでいただけませうかっていうのが大きな課題とございませう。もう、我々も4年ほど前から、誘客の準備をしているところでございませう。

それから、最後になりまして、広域連携っていうこととございませうけれども、長野市さん、今日おいでとございませうけれども、この「真田丸」を通じて、長野市さんと真田丸の広域観光プロジェクトというものを立ち上げさせていたでございませう。これは、観光協会も含めて一緒になってございませう。あるいは旅行雑誌を使ったPRもしていきませうということと、合わせてさっきも言いました「真田丸」の上田のドラマ館と松代の宝物館の共通入場券も発行しようじゃないかということで今、協議を進めているところでございませう。真田氏を通じて、一緒になって広いプロジェクト、広域的なものを進めてまいりたいかと考えています。

それからもう1点、先ほどございませうけれども、松本、金沢、高山の交流、いわゆるプリズムルートとございませうけれども、残念ながら、松本からは中央線になってしまひませうけれども、これをいかに上田へ引っ張るかっていうことと、やっぱり課題と考えています。そういう意味では実はきょうも福岡でのイベント

ございますけども、FDA を使った九州からの便の誘客っていうのも、1つの課題かなって思っています。

先ほどのJTBさんのほうの話、ございましたけども、多くの旅行エージェン트가、中部圏と東京圏に営業所が分かれておりまして、それが松本と実は上田長門が境なんです。で、中部圏のほうに営業に行きまして、松本っていても近いんだよって言うてもイメージ的に、峠があって、なかなか遠いと感じているって方が多いですね。そういう意味では、松本と上田間の二次交通をどうするかっていう課題もありますけれども、是非ですね、我々としては、金沢、高山、松本から上田へ行って新幹線、というルートを確認していきなたいなということを考えているところです。

あと、いくつかの課題はございますけれども、もうひとつが、現在、上田は観光バスのハブ駅になっています。東京から上田まで新幹線でおいでになって、そこから観光バスに乗り換えて県内へ行かれるっていうことですね。今まではそれが往復だったんですけども、この新幹線の開通によりまして片道になっています。上田でお降りになってバスで関西行かれて、新幹線で帰られる方、それから金沢方面へ新幹線で行って、上田へバスで来て、上田から東京へお帰りになる方というのがございます。まあ、こういうような非常に旅行のバリエーションの拡大っていうものがありますので、全体的にはどういうふうにやっていかってというのは、これから解決していかなくちゃいけないかなって思っているところです。私からは、以上です。

増田 / ありがとうございます。現在のところは「真田丸」があるということですので、来年1年間、期待のできる場所ではありますけれども、やはりハブ駅になっているということもあって、いかに通過しないでそこで足を止めていただくかという、そういった観光資源の開発、魅力づくりというのが課題になってくるのかなというように感じました。

それでは長野ですが、長野の場合は「かがやき」も「はくたか」も停まるというとてもいい条件を持ってらっしゃるわけですが、何か課題はおありでしょうか。

島津 / 今のお話のように、長野駅は新幹線、金沢までの延伸に伴ってですね、まあ、東京からって考えますけど、下り上りすべての「かがやき」「はくたか」「あさま」は始発という形で、本数自体は簡単にいうと約倍近い新幹線が停車するという

ことで、先ほど来、申しました長野市の観光情報センターにお越しいただくお客様も非常に多くなっているという状況でございます。

市内の長野駅周辺の主なホテルの稼働率も、先ほど金沢のホテルの稼働率が90%超えということと同いしましたが、長野市内の周辺ホテルでもですね、御開帳の期間中の特に5月は90%を平均で超えている。90%を超えるということは、ほぼ毎日が満室状態ということで伺っております。市内のホテルの関係者の方も、前回の御開帳の時に、毎年8月の夏休みの時期は、稼働率が非常に落ち込んだということで危惧しておったようですが、8月に関しましても昨年よりも上回ります、平均でほぼ85%ぐらいの稼働率、9月もシルバーウィーク等ございましたけれども、82.3%ということで、市内のホテル、駅周辺の主な主要ホテルに関しましては、この10月まではほぼ順調に、お客さまがお泊りをいただいているという状況でございます。

課題ってということになりますと、元々、私ども、御開帳が終わった後、特に首都圏からの今まで大きなマーケットのお客様が北陸に目を向けるということで、その通過点にならないような形の長野市の魅力、観光の素材ですとか魅力を発信していかないと通過点になってしまうということで、これは今後も当然、危惧されることでありますし、来年に関しましては、新幹線が函館まで開業ということで、今度は逆に来年は首都圏のお客様が北海道のほうに目を向けてしまうのではないかとございまして、継続的にやはり、先ほどの宿坊ではございませんが、長野市、信州を含めてですね、長野ならではの魅力発信というものを継続して展開していきませんと、一年一年ということではお客さまが目を向けていただけないということで、継続的に長野ならではの魅力の発信をしていきたいと思っております。

それからもう一つ、大きく課題としては、長野県内の中でもインバウンドと呼ばれる海外からのお客様、今これは全国的にも非常に特に中国、アセアン諸国等から日本に多くの外国人の観光のお客様が見えられているということで、長野市内でもですね、実は今まで冬場、白馬、野沢温泉等の乗り換えということで、ほとんど宿泊に結びついていなかったのですが、昨年ぐらいから、グリーン期と呼ばれる冬の時期以外でも表参道をお歩きいただく姿がちらほらと見受けられるようになりましたけれども、まだまだ全体の日本に入って来ていただいて

いる人数のペースには長野市内、宿泊でお越しいただいているお客さまの分が追いついていないということで、今後さらに増えるであろうというその海外からのお客さまに向けて、長野市だけの善光寺、戸隠、松代という観光素材だけでなく、やはり広く知れ渡っておりますスノーモンキー等を交えまして、組み込んだ長野市内の素材ということで、インバウンド、海外からのお客様の誘客拡大につなげていきたいと考えております。

あと、最後に、来年の1月から、上田市さん、「真田丸」というNHKの大河ドラマがございますので、私も長野市としては、上田市には非常に多くのお客様がお見えになるであろう。その一部でもいいから長野市、特に真田十万石でつながっております松代にお越しいただきたいということで、今いろんな取り組みをしたり、パンフレットを作ったり、先ほど副部長のほうからお話をいただきましたNHKの大河ドラマ館、それから松代の真田宝物館の共通券等を発売をして、是非来年に関しましては、一年間、上田市さんと特に連携をしながら、多くのお客様を上田、それから長野市松代にお越しをいただくような取り組みをして進めてまいりたいと考えております。以上です。

増田ノありがとうございました。いくら「かがやき」、「はくたか」が停まって、やはりきちんと下車していただいて、いかに宿泊して楽しんでいただくかということを目標にさせていただくということになると思います。

時間が押してまいりました。申し訳ありません。大西様には、先ほども課題というところで一日の乗降客500人に対してのお話もありましたので、そのことも踏まえまして、簡単にですけれども、これからちょうどベストシーズンを迎えるというところで、お話をまとめていただければと思います。

大西ノでは、飯山ですけれども、やはり目に見える効果と見えない効果というのがあるのかなあという気はします。宿泊でいえばですね、やはり、特に野沢温泉さんは非常に大きな宿泊施設、抱えています。直通のシャトルバス、野沢温泉ライナーというのが出ていますが、常に特に冬になると満室で何本も増便して出しているというような状況もありました。やはり、宿泊についてでも、もう予約が取れないという状況も出ているところもあります。

まあ、見えない効果としては、やはり、飯山駅ができたことによって、新幹線の車内で停車駅「飯山」を呼んでいただけること自体がですね、非常に大きな

効果かなというふうには思っています。飯山そのものがですね、あまり知名度という部分では大きくありませんので、そういったところで出てくる、露出するというのは我々にとって非常に大きいというふうには思っております。

先日、軽井沢の観光協会の方にお話を聞いたら、軽井沢に降りたお客さまが観光案内所に来て、「とりあえず軽井沢、降りてみたけど、何ができるの」っていうことを聞かれることがあるって言われたんですね。そんなことあるのかって思って聞いていたんですけど、飯山に駅ができれば「飯山来てみたけど、何ができるの」と聞かれるんですね。これは非常に驚かまして、やはりこれは新幹線効果なんだということを実感しています。JRさんの「大人の休日倶楽部パス」というのがあって、乗り放題、東日本の乗り放題の期間がありますが、その時に「とりあえず一番遠い飯山まで来てみたけど、1時間で何できる？」「2時間で何できる？」「どこ行けばいい？」っていう、そんな質問が非常に多くて、やはりそれを満たしてあげるだけのプログラムであったり、仕組み、そういったものを提供してあげるようなものがないと、来たはいいけれどもがっかりして帰ってしまうということになりかねないので、そういったものをしっかり作り上げていく必要があるなと思っております。

あと、利用が増えるということももちろんですけども、やはり泊まっていたら初めて経済の効果も生まれてくるというところがありますので、やはり来て一泊したくなる、もう一泊泊まりたくなるというような、そういった魅力ある地域になるように、そういったものを整えていきたいなというふうには思っているのが我々の課題かなと思っております。以上です。

増田 / ありがとうございます。飯山には本当に何もものにもかえがたい自然というものがありますし、先ほどもありました根曲がり竹ですとか、イナゴとか、大切な食というものもありますので、ぜひ、そういったものを大事にしながら観光資源、大切に使用していただければと思います。最後にまとめていただくとすると、JTBさんの立場から何かありますか。

岩本 / 最後ということで、やはり各地区、いろんな魅力ある素材、実にたくさんあると思います。長野県って意外と観光資源に恵まれている、他の県から言うと、すごく羨ましい羨ましいってよく言われます。ただ、まあその資源に気が付かなかつたりとか、なかなかそれを上手く発信できていなかったりとか、そういっ

た課題があります。そういった中で私どもJTBとしましても、この観光資源をいかに上手くプロデュースしながら世に出していくのかっていう中で、今、取り組んでいる中でひとつ、「感動の瞬間100選」という商品を全国でやっております。その時、そこに行かないと、この景色、その瞬間の景色が見えないという、ひとつの画像っていうかですね、写真をフックにその目的に来てもらうということを目的にやっております。特に長野県におきましては今、阿智村の「天空の楽園【日本一の星空】」っていうことでやったりとか、あと、姨捨の夜景ツアー、で、今年、冬、いよいよ飯山をかなりクローズアップしまして、いわゆる「かまくら」ですね。「小さな秘密基地、かまくらでの冬の寒さをぬくもりの空間で楽しむ飯山の冬景色」というテーマで、かなり実はJTBのパフレット、大きくやっております。こういった「来る目的」を作ることによって、人が動いてもらえるっていうのがありますので、いわゆるそういう来る目的をいかに作るかっていうのがすごく大事ななと思っております。

新幹線、新幹線ってありますけれど、実際、長野県の入り込みの交通手段で、新幹線で来るのは1割5分くらいなんです。基本的にはマイカー比率が6割で、バスを含めると約8割がマイカー、バスで来るお客さんがほとんどという県でございますので、そういった中で、やはり魅力ある地域づくりをいかに作りながら、いかに世に発信して来てもらうかっていうのを継続的に、あとリピーター戦略をいかにしていくかっていうのが、今後の長野県の大きな課題かと思っております。以上でございます。

増田 / ありがとうございます。今日は限られた1時間という時間の中でしたので、何分にもまとまりのつかないところもあったかと存じます。パネリストの皆様、それぞれが1時間ずつでもお話しいただけるような情報をお持ちだと思います。その中でJTBさんのアドバイスからも、広域連携、そういったところからの観光商品の開発、そういうことも含めて、これから横のつながりも生まれていくのではないかと期待しまして、このパネルディスカッションを閉めたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

3 . おわりに

北陸新幹線延伸から半年が経過して見えてきた課題などをテーマに、様々な情報を共有する場となることを期待しパネルディスカッションを行った。その結果、新幹線延伸を活用した誘客のための取り組みや、成功事例の紹介などを織り交ぜて意見交換を行うことができたと実感している。

今回のシンポジウムを機に、今後、信州全体での広域観光ルートの開発や、課題解決に向けての糸口の発見、新たな気づきにつながることを期待したい。